



11・2憲法集会で署名活動をする国賠同盟の原田完会長等

生かそう憲法 守ろう9条

## 「11・2憲法集会in京都」

許すな！国会発議  
安倍改憲を阻止しよう



(545号付録)  
京都版 第412号  
2019年11月15日

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
京都府本部

〒604-8854

京都市中京区壬生仙念町  
30-2 芳館5階

国民救援会京都府本部内  
(電) 075-801-3915

京都の憲法集会「生かそう憲法 守ろう9条 11・

2憲法集会in京都」が円山公園音楽堂で開催されました。主催は「憲法9条京都の会」と「安倍9条改憲NO！全国市民アクション・京都」で、参加は1700人でした。

日本共産党、社会民主党、新社会党、緑の党があいさつ、立憲民主党、国民民主党が、メッセージを寄せました。

コメディアンの松元ヒロさんが安倍政権を風刺とユーモアで痛快に批判し、一人芝居「憲法くん」を披露しました。

小笠原伸児弁護士が講演し、安倍政権の改憲を必ず食い止めようと呼びかけました。

集会は「安倍改憲を阻止し、一人ひとりが大切にされる社会にしよう！」との集会決議を採択し、「憲法9条を守ろう！」「自衛隊を 若者の情報を護すな！」「自衛隊を 中東に派遣するな！」などと、市民にアピールしながら、京都市役所まで憲法ウォークを行いました。

治安維持法国賠同盟員も多数参加し、入り口付近で国会請願署名活動を行いました。

治安維持法と谷善 (3)

「谷口善太郎を語る会」

藤田 洋

(1) 転機となった作家活動の動向  
日本帝国主義が中国侵略を始めていく隆盛中、谷善は其産物との連絡が途絶えをまよました。谷善はその頃のことを回顧して「日も三日も何一つ食物を口にしないことも有る様で暗黒に陥立していた私は、この情勢を絶望的なものとして体験したのである」と書いています。

いつか時を、予告もなく旧知の旧評議会中央委員の野田律太とプロレタリア作家同盟幹部の貴司山治が、監禁体制を強引に突破して自宅のひまひ、谷善と小説を書くよう促すめしました。貴司は、労働者作家の発掘に熱心でした。

K君(貴司のよこのまのあはれ)は三十一年の二月下旬であったかと思つ。わたしはわたしの生涯のいわば一つの転機となつたこの日の会見

をのまちはおぼれてた。……(中略)……

当時わたしは随分激しい毎日と文学的執筆のものはまったたくもつておらず、ま自分なそんな才能があるつもりも思ひなかつた。……大正から昭和にかけて終始労働組合運動のなかで育つてきた当時の労働者活動家の誰かがそうであつたように、わたしもまた、表面激情的な文学運動の大事なきを認めながらも、また、やはり、それを、どこが基本的でないもの、善に近しいもの、と見る情眼をめぐらされていくからである。

①加藤政三「清水健蔵」 1974年 三三書房 200頁

谷善は、「わたしは、戦がわたしから切り離れていった姿を底に発見し」文学活動の境のあることを知り、職業作家となることを決意するのです。

子供でまはした転機の訪れでした。働く者の視点から職業を伝える革命的労働者作家の誕生でした。

④谷善の小品から読者を知られたもの

作家となった谷善は、短編を数多く発表し読者への問題提起を積極的に行ないます。そのいくつかを紹介しましょう。

(1) 「3、15事件捕話」 (1937年7月)

3、15事件で逮捕された市民が、スリリングな観察をまわして逃走中に、自分な戦線放棄したことをうろたえ、元の職場場所戻つていく右様を描いています。「治安維持法の前踏みでござって、あくまで闘い進行してやうと意気のある」と考へる覚悟の姿です。困難と立ち向かう行動力と果敢の決断の明瞭はインテリには無いものでしょう。

(2) 「師の」 (1933年6月)

侵略戦争が拡大していく時代の農村に起きた徴兵を主題としています。60戸の部落で学校の召集令状が来ますが、農民の反応は気おななでした。農民は不意気と不作で生活が疲弊してきて、出征も教人の縁起きの百勝外に自決ははなす級しいもの

でした。一家の大黒柱を兵士に取られた家族のみじめな暮らしで悲しみが想像されます。ここに描かれる農民の戦争への態度は、リアルな本音が語られる逸話なものです。しかし話はいれば終わります。軍部は兵士選「事件をそっちのけで、農民たちの部落を非国民排斥運動の場を造り「村八分」「非国民」と騒ぎ立て、戦意固執も持つていくのです。しかし兵士の手紙で真実が伝えられ連隊のワゴンが轟かれています。

この小説は、谷善の大衆への信頼と未来の確信が垣間見ることができるところです。

(3) 「銃殺一支隊の話」 (1933年1月)

日本軍のサイコロが一人の労働者をおびき殺し、工場労働者たちが憤慨してストライキを起した。日中間軍によって連任され30余人が逮捕されます。全員死刑を要求する日本軍と死刑を一人とする中国軍と対立があり手が、若い指導者一人が町はずれの処刑場を刑刑に決定され

ました。一家の大黒柱を兵士に取られた家族のみじめな暮らしで悲しみが想像されます。ここに描かれる農民の戦争への態度は、リアルな本音が語られる逸話なものです。しかし話はいれば終わります。軍部は兵士選「事件をそっちのけで、農民たちの部落を非国民排斥運動の場を造り「村八分」「非国民」と騒ぎ立て、戦意固執も持つていくのです。しかし兵士の手紙で真実が伝えられ連隊のワゴンが轟かれています。



まず。処刑場は、食べ物を売る売店  
まわりの魚雑物にしてしまわれました。  
群衆は銃剣を早獲するだけで、日本  
軍・国民政府軍の残虐な行為に對する  
抗議もありません。同題を失った  
悲しみを表すこともないのです。谷  
善は、この異題を態度に「憤懣」す  
ら感じます。「民衆の封建時代以來  
の遅れた意識的性情を改めるには、  
どうすればよいのだろうか」と自ら  
に問いかけます。戦争と人間の本質  
にかかわる大きな問題です。

処刑の場面も衝撃です。よゝあの映  
画のシーンと違って中国軍兵士が向  
野多面にばさばさ背中から撃つ  
です。

(4)「参宮列車」(1936年  
4月)

お伊勢参りの列車の中で労働者の団  
体が酒を飲めぬと騒ぎ、その愛国  
気が車中にはまわり、明るい空気をな  
さしていくところ、軍人の二団が乗  
り込み車中の愛国気が二変します。  
谷善は「日本の民衆の立場を、ここ  
にはっきりと見た」と描きました。  
やがて軍人たちは退出下車し、労働

者たちは軍人のいないことを確認し  
酒を飲めぬことになりました。これ  
を見た谷善は「抵抗とみるが、押し  
つぶされた姿とみるか」と自らに問  
題を投げかけています。

(5)谷善の小説「清水健蔵」の中に  
リリンスムを登場させた中村光夫

中村光夫は、「須井一のリリンス  
ム」と題する小説を「帝國文学新聞」  
(1933年1月10日)に掲載し、  
没落する階級を危うくした新階級が

支配する逆説の文壇へ、リリンスム  
を対峙して真つ向から批判していま  
す。その二部を紹介しましょう。

センチメンタリズムは感受性の枯渇  
を標榜してはひ隠そうとすることで  
あり、リリンスムとは逆に感受性が  
あり余って溢れにしている事である。

(中略)

小説の場合、リリンスムとは現実  
に対する強烈な憤慨を、深い関心を前  
提とする。かういふ心は現実を食ひ  
いらつ等と好奇の目を輝かせはしな  
い。逆は現実を食ひたまわれこの眼

を奪うのだ。一流のブルジョワ小説  
家は皆この眼を奪いた作家なのだ。  
須井一(谷善)は正しくこの眼を持っ  
てゐる。そしてこの眼をブルクス  
主義によつて克服した所は須井の文  
学は果がれてゐる。ここにせむらく  
真のプロレタリア・リアリズム、正  
当なプロレタリア文学があるのだ。

創作集の題名にもなつてゐる遺下し  
長編「清水健蔵」で作者は描き  
ていく半十業者とその徒弟の資本に  
對する反抗を描いてゐる。然りそれ  
を讀んで決して我々はこの作のテエ  
マを半十業者の没落だけを感ぜは  
しない。その含意のある傍題の不

確にここに描かれている事を自分等  
の事として感銘を受けらるのである。  
即ち京都の巨陽(四年前)に起つた事  
件は描き出して行く日本の社会そのも  
のとして我々に迫るのである。これ  
は嫌へべき事である。作家同盟の作  
家達が口であれ程いひながら出来な  
かつた事である。だがさうは嫌へ  
べき事はこの液種を極めたストライキ

小説を押しや作者が敏として二点を  
動かぬ段階でもいつべき静かな眼を

先はない事である。そしてこの冷た  
い眼が作者の暖かい肉体を支へられ、  
そこから眼から眼まで沸々と血の通つ  
た文体がはははり出される事であ  
る。それは本能のほほほほのども似  
て自然であり、強ちがない。これを  
私はリリンスムと呼ぶのである。

中村光夫全集  
第七卷「須井一のリリンスム」19  
73年 筑摩書房

「清水健蔵」に代表される谷善の作  
家活動は、侵略戦争が始められる弾  
圧抑圧体制のもとであつてもエネル  
ギッシュなものでした。日本帝國主  
義の姿あらゆる角度からつかんで  
いた彼が大長編文学に挑む姿を思つ  
時、中村の期待するリリンスムが現  
れる確な大作家へ成長したであろうと  
思います。しかし国民政府体制に  
よる思想統制や特待による検閲制度  
は、文学の反戦(対)徹底した弾圧  
を始めました。日本のプロレタ  
リア文学運動は、中国の魯迅などの  
「五卅」の戦いのような行動の結果  
させることができなりました。こ

のことが戦後、谷善に再び政治家の道に向かわすことになったと思われれます。

「谷善は、どんな人やった」と住民に聞いてみると「まるで身内に接するようやった」「自分の苦勞を知ってると温かい人」と返ってきます。こんなところが作品や政治活動の到る処に表れています。谷善の矜持は、庶民への優しさと自分への厳しさにあらわれています。座右の銘の「守道不討」のようです。

(おわり)



国賠同盟の国会請願署名のお願いに、原田会長先頭に諸団体を廻っています！

国会請願活動は、国民の権利である請願権の行使であり、同盟の活動を国民の皆さんに知ってもらおう最も基本的な活動として、毎年5月に行っています。

10月30日、原田完会長先頭に、労働会館内の諸団体、京都総評、自治労連、救済会など12団体を廻り、署名への協力をお願いしました。5団体についてはその場で団体署名をしていただきました。

佐藤和夫副会長は、伏見区在住の諸団体を訪問、署名のお願いを行いました。10団体と話はずみ受け取ってもらえました。

京丹後支部、宇治洛南支部、中京支部も、昨年できなかった請願署名の自主目標を達成しよ

うと、例年より早い取り組みを開始しています。

「2020京都市長選 こんな京都にしたいなあ 市民のつどい」が開かれました！

10月16日、市政転換を自指した集会がみやこめっせで開かれ、3200人が集まりました。

国政の野党への呼びかけ、働きかけが報告され、日本共産党、新社会党が挨拶を行いました。

つどいの特徴は、仁和寺環境問題、南禅寺・岡崎の景観問題、植樹校跡地問題などのまちづくり、子育て、教育、暮らし、営業など市政に関わる様々な多くの要求と願いが出されたことです。

参加者は、共同をさらに広げ、市民の手に姿勢を取りもつと誓い合いました。

京都市長選挙に  
福山和人さんが立候補表明！

昨年4月の京都府知事選で大善戦、京都市内で46・47%の得票率を得た弁護士福山和人さんが、11月11日「こんな京都にしたいなあ市民の会」が開いた記者会見に参加、来年1月19日告示、2月2日投票の京都市長選挙に立候補を表明しました。

これまで知事選で共同を掲げてきた市民と「民主市政の会」は、京都市長選でも「市民と野党の共闘」を実現しようとする努力を積み重ねてきました。「市民自らが政策を実現する市政をつくりあげたい」と意気込みを語りました。

同市長選には、現職の門川大作市長と、元京都党代表の村山祥栄京都市議が立候補を表明しています。